

巻 頭 言

九州地区大学体育連合 会長 根 上 優

この夏、私の勤務する大学では、全学の共通教育部会において、来年度から現行の必修科目である「健康スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ」（2単位）を「選択科目」にするか否か、をめぐって厳しいやり取りが始まっている。これは、独り私の大学のみならず、法人化以降の国立大学に共通する難題ではなからうか。

顧みれば、大学体育の選択化の問題は、昭和40年代後半の教養部改革の時代における中教審の答申に始まり、その後、大学設置基準の大綱化を経て、今日まで延々と30数年の攻防の歴史をもっている。その意味では特段、驚くほどのことではないかもしれないが、事態はむしろ深刻である。なぜなら、今回の選択化への要求が、もっぱら財政的見地から非常勤講師の削減ないし全廃を企図して出されているからである。そこには、かつての教養教育の「あるべき姿」に関する真摯な議論も、科学的根拠に基づく反証の機会もまったく与えられていない。あるのは唯、「ない袖は振れない」といった傲慢な態度だけである。この秋には、選択化に向けて大きく舵を切らざるを得ないのかと思うと、些か憂鬱である。

このように、大学の体育を取り巻く内外の情勢はきわめて厳しいものがあるが、一方で、私たち九州地区大学体育連合の活動は、その目的や内容を時代に合わせて変えながらも、従来にも増して充実してきている。現在の九州地区大学体育連合は、中教審の答申をきっかけに、九州大学の徳永幹雄先生を始めとする若手研究者らが集まって結成され、年2回の研修会を開催することでスタートした。夏期研修会は「教員の実技指導能力の向上」を、春期研修会は「保健体育の授業に関する学問的研究と情報交換」を、それぞれ主たる目的として実施され、その成果は、昭和50年に第1回九州地区大学保健体育研究会報告書（第1号）として結実している。その後、平成10年には、25年の歴史をもつ夏期研修会に幕を降ろしたものの、春期研修会は「体育・スポーツ・健康に関する教育研究会議」の名を冠し装いを新たにしながら、主として学術面からの貢献へとシフトしていくことになる。と同時に、上記報告書も「九州の大学体育・スポーツ」（第25号）と、その名を変え、内容も時代の要請に合わせて、研究会議の成果報告に加え、加盟大学の体育・スポーツ・健康に関する取り組みを学問的・実践的に検証するものへと充実させた。このような地道で息の長い活動と成果の蓄積の上に、平成12年には、他に類を見ない九州地区独自の機関誌「体育・スポーツ教育研究」（第1巻第1号）を創刊するに至ったのである。

「体育・スポーツ教育研究」は本号で第6巻を数えるが、その間、毎年3月に開催の研究会議では、一般研究発表と特別講演・講義の他に、創設以来の理念である授業研究に関わるシンポジウム「魅力ある授業づくり ― 教育と研究の融合化 ―」（平成12～14年度）や、今日の大学体育に最も期待されている地域貢献を主題にしたシンポジウム「いま大学体育に求められるもの ― 魅力ある授業づくりと地域貢献 ―」（平成15年度～）が継続的に実施されている。

そして今、こうした地道な努力の上に、平成17年度科学研究費補助金に「2件」の応募を試みるに至り、そのうち「大学生の心身の健康問題に対処しうる独創的体育プログラム開発のための企画調査」（基盤研究C、研究代表者橋本公雄）が見事採択されたのである。現在、本企画調査で得た成果を基に、来年度に向けて、より大型の研究へと発展させるべく、プロジェクトの企画開発に取り組んでいる。

本号には、会員個々の研究や実践報告に加えて、授業研究や地域貢献など、今、私たちの間で最も真剣に討議されている課題が盛り込まれている。各方面からの忌憚のない御意見・御批判をお願いする次第である。

目 次

巻 頭 言	根上 優 (九州地区大学体育連合 会長)	1
-------------	----------------------	---

I. 教育研究論文

1. 原著論文	大学体育における「魅力ある授業づくり」試論 — 球技の授業における教材構成の基本原則 —	鈴木 理 (宮崎大学教育文化学部) 5
2. 原著論文	「健康・スポーツ科学講義」で身体活動量は増強できるか — 行動変容技法の指導の効果 —	橋本 公雄 (九州大学健康科学センター) 13
3. 研究資料	大学における教育改革と東海大学の新しい取り組み	米沢 久 (九州東海大学) 23

II. 体育・スポーツ教育

1. 提 言	九州地区大学体育連合の新たなる挑戦, 今再び全国に先駆けて	橋本 公雄 (九州大学健康科学センター) 33
2. 特別講演	我が国における人口構造の変化について — いわゆる「少子高齢化問題」を中心に —	隅倉 直寿 (九州東海大学) 35
3. 特別講義	授業づくりの方法と原理	鈴木 理 (宮崎大学) 43
4. シンポジウム	「地域貢献の方法と課題」	満園 良一 (コーディネイター 久留米大学) 45
1) 熊本大学における地域貢献とその課題	川崎 順一郎 (熊本大学名誉教授) 中川 保敬 (熊本大学) 井口 佳久 (NPO 法人 スポーツ福祉くまもと) 高木 誠司 (NPO 法人 スポーツ福祉くまもと)	46
2) シンポジウムを振り返る	満園 良一 (久留米大学)	49
5. 体育・スポーツ教育研究発表		
1) 大学で学ぶテニスの技と文化の授業	中島 憲子 (中村学園大学)	50
2) 生活の体育化の実践に向けて — 体育手段に着目して —	飯干 明 (鹿児島大学)	53

Ⅲ. 体育・スポーツ事情

1. 海外だより ― アジア障害者体育・スポーツ学会 (ASAPE) の組織と活動 ―
..... 柿山 哲治 (活水女子大学) 57
2. 大学めぐり ― 長崎県立大学 ―
..... 西村 千尋 (長崎県立大学) 59
3. 九州地区大学体育連合研修会
 - 1) 「体育・スポーツ・健康に関する教育研究会議」春期研修会の概要 61
 - 2) 九州地区大学体育連合春期研修会に参加して
..... 末吉 靖宏 (鹿児島大学) 62
 - 3) 春期研修会を終えて
..... 加藤 健一 (熊本学園大学) 64

Ⅳ. 事務局報告

- 平成16年度 九州地区大学体育連合事業報告 65
- 平成16年度 収支決算 70
- 平成17年度 九州地区大学体育連合予算 71
- 平成17年度 九州地区大学体育連合補正予算 72
- 平成17年度 事業計画 73
- 「体育・スポーツ教育研究」の投稿原稿募集について 74
- 九州地区大学体育連合規約 75
- 平成16年度 九州地区大学体育連合役員名簿 76
- 平成17年度 九州地区大学体育連合役員名簿 77
- 平成16年度 九州地区大学体育連合 加盟大学および個人 78
- 平成16年度 賛助会員一覧 80
- 平成17年度 賛助会員一覧 80